

総務常任委員会

所管事務調査

6月6日
6月22日

- ・学校施設整備経費について
- ・請負業者の
指名停止措置の経緯について

おり、定例会及び臨時会における資料及び提案説明では不十分のため、より詳しい資料の提示と説明を求め、委員会を開催した。

▼結果

(1) 学校施設整備経費（6月補正含む）について
早来小中学校建設工事の建築主体工事は22億1760万円で令和3年6月30日に本契約が行われている。

1回目の変更契約

着工時から令和4年1月末までの工事実績の増額分で搬入経路軟弱による仮設鉄板の追加、発生土一時仮置運搬費の追加、トイレ床防水やグレーチングの中止、ホワイトボードの数量減等の工事内容の変更により合計397万1千円を増額した。

2回目の変更契約

木材、鋼材価格の高騰等により請負人から請負代金の変更請求があったため、契約に基づき設計変更を行い6821万1千円を増額した。なお、残工事費については1%を上限に業者負

担とし、残りを安平町の負担とする旨の説明を受けた。

3回目の変更契約

大雪に伴う現場内除排雪の追加、設計漏れによる木下地材の追加、鉄骨数量の増、要望に基づく大アリーナ走路デッキ床材の変更による増、ホワイトボード仕様の変更による増、道単価等の入替に伴う増額で、合計8721万9千円を増額したが、通常予見不可能な価格の変動ではない変更が含まれているため、その場合の変更手続き等について意見を交わした。

6月補正予算の内容

主に物価高騰と労務単価の上昇に伴う増額補正となる旨説明を受けた。

(2) 請負業者の指名停止措置の経緯について

1回目の設計漏れ

令和3年2月に完了した実施設計業務の建築主体工事設計内訳書の内容に設計漏れがあることが発覚。入札執行前であったことから設計内訳を差し替えて入札を執行した。

業者に対しては入札執行前であったため「注意勧告」を行い再度設計内容を確認するよう町から指示をした。

2回目の設計漏れ

その後、工事発注後の令和4年4月に再び設計内容に不備があることが発覚し受託業者から設計内容に漏れがあった内容と原因について町へ説明があった。

安平町競争入札参加資格等選考委員会において北海道の意見も参考に（株）アトリエブクを1か月指名停止措置とする旨答申し、答申どおりに措置された。

意見交換

この設計漏れを是正したことによる工事費は、諸経費などを含まない直接工事費で4447万8千円の増額となり、これを町が全て負担しなければならぬのか、瑕疵があった設計受託業者にも応分の負担を求めるとの意見を交わした。また、2度の設計漏れについて、成果品を確認する立場である町の責任の所在の有無について確認したが、実施設計の段階では

材料の内訳が積算されていないため確認は難しい旨の回答がなされた。

▼まとめ

調査結果に基づき、次の項目に対する町長の真摯な対応を求めた。

(1) 早来小中学校建設工事の事業費増額の経過及び請負業者の指名停止措置について、一連の経過と内容を住民にわかりやすく、かみ砕いて周知すること。

(2) (仮称)安平町立早来小中学校・中学校実施設計業務の建築主体工事設計内訳書において2度の設計漏れがあったことから、他に漏れがないか精査するとともに成果品を確認する立場である町の責任を検討されたい。

(3) 設計漏れを是正した分の工事費については、設計業者の瑕疵の範囲の中で応分の負担が求められないのか、設計受託業者と協議をされたい。

▼目的

早来小中学校建設工事については、ウッドショック及びアイアンショック、物価上昇に伴う設計変更と契約金額の増額変更がなされてきたが、それらとともに設計漏れや材料の変更など通常予見不可能な価格の変動ではない変更も含まれて



よねかわ えみこ
米川恵美子議員

高齢者の心身の健康が心配される 状況の認識と支援対策を問う

子どもの安心が優先の指導体制は学習指導員と 介助員に役割分担と心の相談員の適切配置

質問 高齢者の心身の健康が心配される状況の認識を伺う。

答弁 身体活動量や社会活動の減少が長期化すること、フレイルや要介護状態を危惧していることから、包括支援センターにおいて電話がけや訪問活動等をやっている。

質問 健康状態の意識付けのために定期的に健診を受ける仕組みづくりをしてはどうか。デジタル化により健診の必要性の把握と、お知らせが可能になると思うが。

答弁 高齢者台帳のシステム化により高齢者の健康管理に活用し支援活動に役立てている。後期高齢者の健診に歯科を加え、令和5年度を目標に独自の項目を追加する。医療及び介護給付のレセプト情報から健康状態不明者抽出を行い、生活習慣病や病気重症化、また、認知症等の予防を重点的に行うため、データに基づく健診事業を行う予定。

質問 通院のためにはデマンドバスが自宅まで迎えに

行く事と循環バスの無料化はできないか伺う。

答弁 80歳以上の方に共通回数乗車券を交付しているほか、ハイヤー運賃の半額助成を行っているため循環バスの無料化は考えない。あびら追分クリニック通院は自宅までデマンドバスが行く。渡邊医院通院でも行く。早来、追分間をまたぐ場合はデマンドバスは使えない。

質問 デマンドバスが自宅まで行ける状況に違いがあるのは納得いかない。遠浅地域の方が苦小牧東病院のバス利用も不便なため改善の要望がある。今後の課題として検討をお願いする。

答弁 苦小牧東病院バスは一日4往復している。利用者増の観点からも改善を行っていききたい。

質問 高齢者の元気を応援するために飲食店利用券の交付は検討したのか伺う。

答弁 コロナ感染症減少のため高齢者対策事業の再開が可能になった。町全域の経済活動を考え、コロナ禍に加えて諸物価高騰も影響

大であるため、プレミアム商品券の発行部数を昨年より2千セット増の1万セットにした。今後、ポストコロナ社会に向けて老人クラブ運営事業や地域支えあい事業等、交付金活用について積極的にサポートする。

質問 特別支援教育補助員の採用についてと、子どもの安心が優先の指導体制についてだが、先に特別支援教育補助員の役割は何かを問う。

答弁 基本は担任の指示に基づき身体援助や多動性の子の援助が主内容。近年対応事例は無いが配置していた学校もあつたため役割と配置の見直しを行った。

質問 学習支援の立場で教室に入っていた先生がいらしたのではないか。先生が必要かどうかの判断内容と決定者は誰なのか伺う。

答弁 実際に学習支援している先生はいたが今回、支援教育補助員の削減が目的だった。町教育支援委員会等の場で、状況や対応方法の評価を行い教育長が決定している。特別支援学級に

おける教育を認識し受け入れる保護者が増えている。

質問 教育補助員の解雇の理由の一つが町の財政的な事だったのか。今後の採用人数と部活指導員の考え方を合わせて伺う。

答弁 学習指導員と介助員に役割分担の改正もした。時間単価が一般職員単価より高額なのが理由。70歳未満に年齢制限を設けた。本年度は11名の配置が可能になり6名を継続配置した。早来義務教育学校になる来年度は道費による加配教員の確保等、支援体制強化を行っていく。部活指導者は教員の負担軽減等から配置を推進したい。

質問 道派遣のスクールカウンセラーや心の相談員の配置について伺う。

答弁 スクールカウンセラーは派遣されている。心の相談員は相談実態が無いため居ない。来年度以後は義務教育学校の開校で早来地区の環境が変わり、教諭、児童生徒を問わず戸惑いが生じると考え、ケースに合わせて適切に対応する。



とり ぐえ ま ゆ み
鳥越真由美議員

高齢化に負けないまちづくりとは

足の確保と認知症対応には 仕組み作りと人材確保が必要

MCIに対する認識と対応は (MCI: 軽度認知障害)

質問 町内では記憶障害によるものと思われる支払い拒否等の相談が事業者から増加、風評被害やトラブル回避のために高齢者との取引を消極的になりにかねない懸念があるが、現在の状況と対応、考え方は。

答弁 地域包括支援センターが昨年受けた支払い拒否に関するトラブル相談は、間接的な情報として、年間1回程度。売り買い等の契約は民事のため、直接介入できない。

質問 高齢者の親族との連絡状況は。

答弁 高齢者台帳システムにて管理。

質問 軽度認知障害MCIに対する認識は。

答弁 MCIとは正常と認知症の中間の状態。強い物忘れはあるが日常生活に支障が無い。年間10%から30%は認知症に進行する一方、正常なレベルに回復する人もいる。脳内のタンパク質を調べるスクリーニング検

査によって判定する方法もある。地域ミーティング等の開催、社協とも連携。

質問 事業者からの相談窓口開設、それによるデータの積み上げ。検査項目にMCIを追加し、議員をはじめ、公職に就く方々から実施開始などに対する見解は。

答弁 商工会の協力のもと、会員の皆さんへの認知症サポーター養成講座開催予定。計画取り組みについては時間が欲しい。

高齢者に寄り添う 足の確保について

質問 デマンドバス、循環バスの利用推移は。

答弁 コロナウイルス感染症の影響もあり、近年の利用者は大きく減少している。令和4年は、回復傾向。

質問 バス運行やタクシーに対する町民からの意見は。

答弁 住民アンケートや意見交換会、個別意見を含め把握している。循環バスは認知度が足りないとの意見。ハイヤーについては乗りた

とハイヤーと認識している。早来地区のハイヤー空白問題は早期に道筋を付けるよう努力する。

質問 バス運行に必要な年間経費の額、バスの所有台数は。

答弁 令和3年度実績で循環バスは2115万3000円で3台。デマンドバスは1628万1000円で2台。循環バスは令和4年から3年間の契約。車輛は古く、修理も出てきている。

質問 今後、バスを継続していくのは難しいと思う。人手不足の課題に対し、現場職員の副業や再任用の活用など対価を得る形での継続的な人材活用が必要ではないか。今後の考え方は。

答弁 人材確保も含め地域公共交通の中でも検討の方向性を例示。地域おこし協力隊制度活用、個人事業主やパート労働者の兼業としての仕組み作りと二種免許取得費用助成制度等も併せ検討していく。10年先を見据えながらも、直近の課題は計画以外のことも検討していく。

一般質問を終えて

安平町は、高齢の方々に共通回数乗車券を(申請により)配布するなど、町外には無い制度も多い。デマンドバスは申し込みが面倒、循環バスは乗り方がわからないし、そもそもバス停まで歩けない、回数乗車券も申請が難しい、という方が少なくない。暮らしを支える足の確保に求められているものが見えてきたのではないだろうか。

そして、誰もが感じている認知症の不安。しかし、その発症を回復、遅らせる方法の一つとして「MCIのスクリーニング検査」と治療がある。それにより、回復の可能性があるので、まずは公職である議員が利用することで周知できないだろうか。

町は高齢化から逃れられない。継続的に支えるための仕組み作りは喫緊の課題だ。



たかやま まさひと
高山正人議員

町道の施設等維持管理について

質問 町道施設等維持管理で点検パトロールの点検項目で何を確認しているのか。

答弁 路面、路肩、排水施設、路上施設、橋梁、工事中箇所、道路占用などその他として法面、擁壁、河川の状況なども確認している。点検方法は職員と2社に委託してパトロールしている。

自治会長会議で指摘、要望の他、町民の方からの情報で対応している。

質問 どのようなサイクルでパトロールしているか。

答弁 目視できる範囲での点検で幹線道路については週1回以上、その他の路線については月1回以上と分けている。全ての路線を完璧にはできないので、一応当たりを付け壊れる可能性はある程度担当者もわかっている。業者は指示をして対応している。

質問 修繕や補修はどのような指示で決定するのか。

答弁 パトロールの結果や町民からの情報により、担当者が緊急性や修繕規模などを判断して町内業者に指示や依頼をしている。予算

が不足する場合などの緊急性を判断して緊急性が高ければ予算を流用したり、緊急性が低ければ内容によって補正予算を計上したり、新年度予算に計上して対応している。

質問 お年寄りにとって歩道が大事なツールです。買い物や散歩など段差の激しさは若者と違ってかなり面倒で、杖をついたり、シルバーカーを押したり、条件的にはかなりきつい。町民から言われていることは今すぐにも直してほしいのですが、毎年予算書を見ても今までの予算額ではなかなか難しいようで、町はどのように検討されているのでしょうか。町内会の皆さんからも言われている要望に対する善処策を現場で見ることが少ないと思うが。

答弁 内部的には担当者とも当然高齢者の歩行の問題についても話し合っている。今は車道が先行して修繕、補修をやっている。歩道については、マス部分の段差だとか、壊れているなど極力直すようにしているが、

全面的な改築までは至っていない。

質問 修繕工事や改修工事は、どのような基準で順番を決めているのか。

答弁 緊急性がある箇所やこのまま放置しておく危険な状態が予測される箇所を優先している。

質問 道路や歩道など老朽化対策をどう考えているのか。

答弁 今年度は道路施設修繕計画の中の舗装編を更新で委託発注している。実施については結果に基づき理事者及び財政担当局と相談しながら進めている。

質問 平成29年度から計画していた内容でどれくらい達成しているのか。

答弁 今回は胆振東部地震によって擁壁が壊れた所は災害復旧事業で直している。実際のところ計画全て実行できていないのがほとんどです。災害復旧で直したところしかできていないのが現状です。

一般質問を終えて

四年ぶりの質問が終わりました。町民の声で道路や歩道の修繕について取り上げました。平成29年の予算で970万円、令和4年の予算で650万円道路施設修繕計画を作成中です。答弁では計画はほとんど実行できていないと言われてがっかりでした。この町には子どもやお年寄りも生活し、日々道路や歩道を利用してはいますが非常に困っています。長年修繕費用も増額もありません。10年前にも同じ質問をしたことがあり何も変わっていないと思ってしまう一言。

いち早く財源をキープしてしっかりと修繕していかないと町民に呆れられてしまいます。バランスのとれたまちづくりを求めていきたい。



うめ もり たか ひと
梅森敬仁議員

地域医療の運営・施設環境について

住民ニーズの観点から

地域の活性化について

コロナ禍で各種行事の中止が多いが今後の計画は

住民ニーズの観点から 医療機関通院患者の 送迎サービス支援を

質問 早来地区では既に医療機関が車による送迎サービスを行っています。高齢者や体の不自由な人からもパーフェクトな対応として大変感謝されています。聞

くところによると、もっと多くの人が乗れる車への買い替えが必要となっているようです。

追分地区の住民からも送迎サービスを望む声があります。その追分地区では、春から苦小牧東病院系列のあびら追分クリニックが開院し、同時に行政区域にとらわれずに苦小牧市にある苦小牧東病院までのあびら医療連絡バスを一日4往復運行しています。これに対して町は年間1000万円程度の補助金で支援することになりました。これは住民ニーズを先取りした施策で住民サービスの観点から積極的に取り込んだことで非常に評価すべきものと感

安平公民館、早来地区にあるラピア、遠浅公民館を経由して運行しているもので入院患者の家族も無料で利用可能なことから、これからの利用者増加が期待されています。



住民ニーズに比べると、この観点から地元の医療機関に通う患者に対しても既に住民サービスをしている、又はこれからしようとしている医療機関に対しても補助金等の支援をしてほしいと考えます。

答弁 町としても早来地区でのパーフェクトな対応については感謝申し上げます。しかし、現在町としては循環バス・デマンドバス更に昨年からハイヤーの運賃半額助成等、通院する方も含

めて公共交通の事業も展開しているところです。この利用促進、利便性の向上を推進していきたいと考えています。さらに、提言いただいたことも踏まえて総合的に最適化を突き詰めていきたいと考えています。

医療機関周辺の 道路・歩道整備に ついて

質問 医療機関の施設外周の道路・歩道の整備について特段の配慮をしてほしい。降雨時、雪解け時期に水たまりなどができ、足の不自由な方たちが難儀している場面を何度か目撃しました。

答弁 病院周辺の水たまり等、環境整備的な問題については、相談があれば適切に配慮していきたいと考えております。

地域の 活性化について

質問 地震やコロナ禍で地域活動が下火になり町内に閉塞感が広がっています。地域活性化事業の今後の計画は。

答弁 7月2日にあびら夏うまかまつりが3年ぶりに開催されます。地域等で行事やイベントの実施を判断することは非常に悩ましいことだと認識しています。しかし、各種団体等によるイベント開催は、まさに町の活性化の原動力だと思っています。さらにイベント等が開催しやすい雰囲気づくりや的確なアドバイス等にも配慮してまいります。

一般質問を終えて

早来地区における新しい学校建設工事の間もなく完成を迎える。地震によるライフライン復旧工事もほぼ終わり、今後は町の復興対策事業を今更以上で急ピッチで進めることが望まれている。人口減少対策・地元事業者支援対策、高齢者医療問題対策等、我々議員活動も活性化が求められていることをしっかりと認識して頑張っていこうと改めて思った。